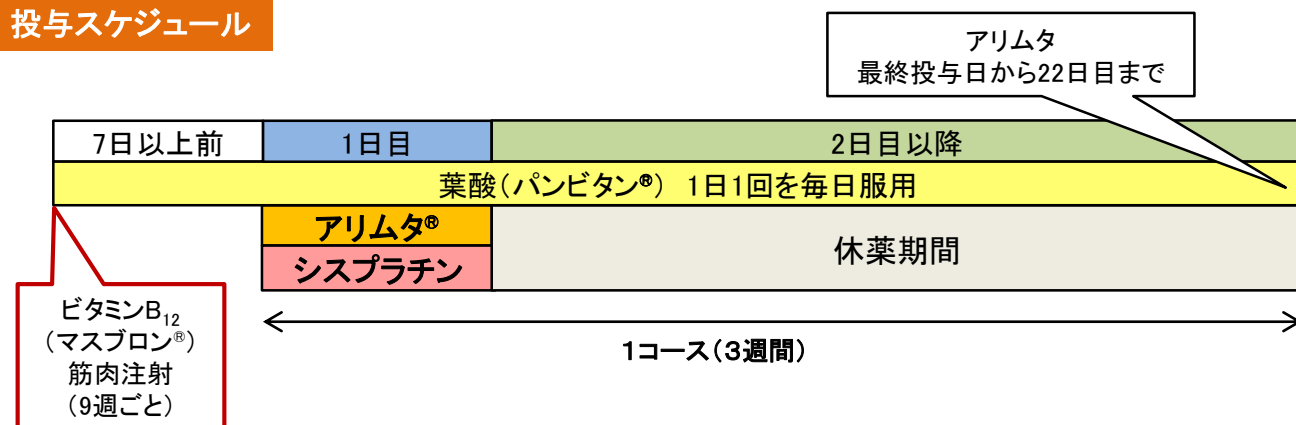


# アリムタ<sup>®</sup> + シスプラチン療法を受けられる方へ

★アリムタ<sup>®</sup>を使用する場合は、葉酸(パンビタン<sup>®</sup>)とビタミンB<sub>12</sub>(マスブロン<sup>®</sup>)の補給が不可欠です。葉酸とビタミンB<sub>12</sub>には、アリムタ<sup>®</sup>投与による副作用をある程度抑える働きがあり、白血球や血小板の減少、嘔吐や下痢などを軽減させます。

## 投与スケジュール



3週間を1コースとして、通常4コース行います。場合によっては、アリムタ<sup>®</sup>の単剤治療を継続します。

## 主な副作用と発現時期

次のような症状があらわれたら、医療スタッフにお知らせください。  
※ 個人差があるので、その他の副作用についても十分注意して下さい。

治療当日～数日	●血管痛・静脈炎 ●吐き気・嘔吐 ●過敏症 ●腎障害
治療数日～数週間	●吐き気・嘔吐 ●疲労感 ●口内炎 ●発疹 ●白血球減少 ●血小板減少 ●下痢
数週間～数か月	●耳鳴り・難聴 ●貧血

◇**白血球減少**:発熱、寒気、咳、のどの痛み、頭痛  
38℃以上の発熱がみられた場合は、すぐに受診してください。

外出時はマスクを着用し、人ごみを避けましょう。  
手洗い、うがいをこまめにしましょう。

◇**貧血**:めまい、息切れ、疲労

赤血球が減少して貧血になることがあります。貧血がひどい場合は、輸血を行うこともあります。

◇**血小板減少**:血が出やすい、アザができる

血小板は血液を固める働きがあるため、減少すると血が止まりにくくなります。  
ケガや転倒・打撲には十分注意し、歯磨きや鼻かみは優しく行いましょう。

◇**発疹**

15人に1人くらいの割合で生じます。  
発疹の程度によって副腎皮質ホルモン(ステロイド剤)などを用いて治療します。

◇**吐き気・嘔吐**

投与を受けて1週間後には楽になっていきます。  
なるべく水分を取るようにし、消化の良いものや食べたいものを少量ずつ食べましょう。

◇**下痢**

1日4回以上の排便や水様便がみられた場合は、医療スタッフにご相談ください。

◇**腎障害**:頭痛、尿量の変化、むくみ、ふるえ、痙攣

腎障害は一度起こると重症であることが多く、治療を続けられなくなることがあります。

投与後数日は水分をできるだけ多く取り、尿量を増やすことによって予防できます。

頭痛、尿量の変化、むくみなどの症状が出た場合は医療スタッフにご相談ください。

◇**耳鳴り・難聴**

高音域が聞こえにくくなったり、耳鳴りなどの症状が出た場合は、医療スタッフにお伝えください。